



## CES 2015(ラスベガス)におけるフォルクスワーゲン ブースのハイライト

- 未来へのカギとなるジェスチャー コントロール
- 年内に CarPlay(Apple)と Android Auto(Google)を車両に搭載
- さらなる進化を遂げた自動パーキングシステム
- 電気自動車のための非接触充電(インダクティブ チャージング)

ウォルフスブルグラスベガス、2015年1月6日

未来の自動車は、高度に情報ネットワーク化されると同時に誰もが直観的に操作できるものになるでしょう。フォルクスワーゲンは、このような時代の流れを受けて、ラスベガスで現在開催中のコンシューマー エレクトロニクス ショー(略称CES、開催期間:1月6日~9日)に「ゴルフRタッチ」を出展しています。様々な操作指令をハンドジェスチャーにより行える世界初のコンパクトカーである「ゴルフRタッチ」は、遠くない将来における乗用車のあり方を提示しています。一方で、いわゆる「コネクティド ゴルフ」は、今日利用できる数々の魅力的なソリューションを示しています。例えば、このモデルに搭載されている「App Connect」(アップ コネクト)システムには、「MirrorLink™」、「Android Auto」(Google)、「Car Play」(Apple)といった、それぞれ異なるスマートフォン インターフェイスが備わっています。フォルクスワーゲンはこの「App Connect」を、年内にも最新世代のインフォテインメント システムとともに、米国およびヨーロッパ市場で導入する予定です。

フォルクスワーゲンが今回ラスベガスで公開した「ゴルフRタッチ」コンセプトは、人間のハンドジェスチャーを正確に翻訳して操作指示として受け止めます。つまり、革新的なテクノロジーにより、乗員はタッチスクリーンにも触れることなく、手の動きだけで、ディスプレイや他の機能をコントロールできるのです。例えば、フロントウインドーの方角に手先を振る動作でサンルーフが閉まります。同じ動作を逆方向で行うと、サンルーフが開きます。シートの調整も、同様にスマートな方法で行うことができます。結果、このクルマにおいては、人間と機械が一体化したような緊密な連携が実現することになります。

「コネクティド ゴルフ」とは、現在実現可能なもっとも効率的にネットワーク化されたクルマとして仕上がっています。インターフェイスの管理に先進的なコンセプトを導入した新世代のインフォテインメントシステム(MIB II)により、膨大な数のアプリ、スマートフォン、タブレット端末、およびスマートウォッチなどに対応することが可能となりました。「コネクティド ゴルフ」には、他にも様々な新機能が採用されています。例えばナビゲーションシステムには、通勤路など使用頻度の高いルートや、ドライバーの指示なしに自動的に導き出す機能が追加されています。その時に、渋滞の可能性があればドライバーに警告して、流れのよりスムーズな別ルートを提案します。

フォルクスワーゲンはまた、今回のCESにおいて、学習機能を搭載した「パークアシスト」の進化バージョンも公開しています。このシステムを備えたクルマは、駐車スペースに向けて頻繁に辿られた車両の軌跡を読み込んでデータとして蓄積し、駐車を行うとき、その軌跡を半自動で再現します。開発の次のステップにおいては、一連の駐車作業をリモートコントロールで行うことも可能になるでしょう。その場合、確保された駐車スペースをシステムが認識すれば、ドライバーはクルマから離れても、リモートコントロール デバイスやスマートフォンなどで確認しながら、駐車作業を完了させることが可能になるでしょう。さらに出発時には、クルマが記憶しているいつもの軌跡を辿ってリモートコントロールで駐車スペースから出てくる、といったことも現実になりそうです。

CESでフォルクスワーゲンが発表した4つめの技術ハイライトは、将来の普及が見込まれる電気自動車の無接触充電(インダクティブ チャージング)をテーマにした「eゴルフ インテリジェント チャージ」です。このモデルにはプラグもケーブルも必要ありません、充電テーブルの上に乗るだけで自動的に充電が行なわれます。